



あのときの常呂・写真館

VOL 109

(1966年)

昭和41年2月3日

福山小学校に岐阜県から手袋のプレゼント

▶この写真は、少しさかのぼる物語の説明が必要なので、『福山小学校 四十年のあゆみ』（昭和40年11月28日発行）から抜粋します。●昭和37年8月に発生した台風17号が福山地区に大きな被害をもたらしました。NHK北見放送局が現地を取材し、福山区長や児童の声をラジオで全国放送したところ、その放送を偶然聴いていた岐阜県高山市の大埜間（おおのま）昌さんという方が、さっそくお見舞いとして区長宛に激励の手紙と児童のために衣料品と児童図書を小包で送ってきました。この手紙と小包を受け取った区長が福山小学校と連絡を取り、衣料品は児童を通じて各家庭に、本は学校で「大埜間文庫」と名づけ、活用を図ることになりました。●大埜間さんからは、以後も毎月本の購入用として1500円送られています。『四十年のあゆみ』と『五十年のあゆみ』には、〈大埜間文庫のあらまし〉と題して創設の経緯を綴っています。●『イワケシュ郷土史』には、昭和38年から44年まで「総額10万円相当の寄付」と記録しています。●この写真は、大埜間さんから児童に手袋と児童書が贈られ、それをNHK北見放送局が取材したときのものです。福山小学校の学事報告に断片的な記載があるだけなので詳細は不明ですが、岐阜県と福山をつなぐ温かい交流があったことを写真の情景から見えてきます。





上：先生が子どもたちに、贈られた手袋の説明をしているように感じます。
下：手袋を手にはめ、教室中が喜び、盛り上がっているようすがうかがえます。





* 贈られた手袋をはめて、スキー学習を行う準備なのかもしれません。





＊下：取材用と大埜間さんへのお礼用を兼ねた全校児童の記念写真かもしれません。
ちなみに、昭和40年度の児童数は65人、教員は4人でした。



＊右の木彫りの置物は、昭和47年
11月3日に、福山小学校から
大埜間さんにお礼として贈った
もの（台座に、北海道常呂町
福山小学校の文字が刻まれて
います）

